

国際化学肥料ニュース（2014年8月）

肥料業界の2014年8月動態

- * 中国の化学肥料生産量が初めて減少した。中国国家統計局の最新データによれば、2014年1~6月の化学肥料生産量が3444.82万トン（純含有量で換算された値、以下同）、昨年同期より1.82%減少した。その内訳は、窒素肥料2395.53万トン（2.02%減）、りん酸系肥料777.64万トン（3.33%減）、加里肥料270.69万トン（4.39%増）であった。
- * ロシア Uralkali は2015年上半期中国向けの塩化加里を値上げする予定。Uralkali の販売総責任者 Oleg Petrov 氏は、中国今年の塩化加里消費量が約1200万トン、来年も需要が旺盛で、50%以上を輸入に依存すると述べた。来年の塩化加里輸入に関する商談は今年秋から来年1月頃までに行い、Uralkali は35ドル／トンの値上げを要求して、CFR価格を340ドル／トンにする予定である。
- * ブラジル税関のデータによれば、2014年1~6月の塩化加里輸入量が昨年に比べ27%増加し、393万トンと史上最多となった。輸入元の内訳は、Canpotex 120万トン、BPC110万トン、Uralkali 95.5万トン、イスラエル ICL38.5万トン、チリ SQM28.9万トンであった。
現在、ブラジルの大粒塩化加里のCFR価格が360ドル／トン未満で、加里メーカーが下半期にCFR360ドル／トンに値上げするよう要請してきた。
- * 大粒尿素の国際価格が急騰している。その主な原因は大粒尿素が機械施肥に適しているため、アメリカの需要が旺盛で、ブラジルも輸入量を昨年より100~120万トン増加する予測である。また、大粒尿素の主な輸出国エジプトは天然ガスが不足で、尿素生産に支障が出て、輸出量が激減した。イランは経済制裁の関係で、上半期の大粒尿素輸出量が50万トン以上減少した。現在、アメリカの輸入大粒尿素のCFR価格が400~410ドル／トンに暴騰し、中国産大粒尿素のFOB価格が315ドル／トンに値上げした。また、ロシア Eurochem 社は大粒尿素の9月FOB価格が345ドル／トンになると提示した。
大粒尿素の価格上昇を受け、普通小粒尿素の国際価格も上昇傾向を示した。中国産小粒尿素FOB価格がこの1ヶ月で約10ドル／トン値上げした。中東産尿素も約10ドル／トン値上げして、305~310ドル／トンになった。
- * アメリカ肥料研究所(TFI)の最新データによれば、アメリカ6月のDAP輸入量8600トン、MAP輸入量3.7万トンであった。2014年1~6月のDAP輸入量が8.6万トン、

昨年同期より **6.3** 万トン増加した。また、**1~6** 月の **MAP** 輸入量 **19** 万トン、昨年同期より **21.7** 万トン減少した。

また、**6** 月の塩化カリ輸入量が **91** 万トンであった。**2013~2014** 年肥料年度には塩化カリ輸入量が **974** 万トンに達し、前年度より **3%** 増えた。輸入はほとんどカナダからのもので、ロシアから **53** 万トン、イスラエルから **17.3** 万トン、チリから **11** 万トンだけであった。

2013~2014 肥料年度の尿素輸入量が **746** 万トン、前期より **8%** 減であったが、それでも史上 **2** 番目高い記録であった。輸入先の内訳は、カタール **134** 万トン、トリニダードトバコ **97.7** 万トン、中国 **89.8** 万トン、クウェート／バーレーン **76.7** 万トン、サウジアラビア **68** 万トン、アラブ首長国 **60.1** 万トン、オマーン **49** 万トン、ロシア **39.5** 万トンであった。

* オランダ **RaboBank** が発表したレポートによれば、アメリカ、中東およびアフリカ地域が尿素生産能力の急増により、**2015** 年から世界的尿素過剰事態となる可能性が非常に高い。そのリポートの要約は下記のとおりである。

現在、アメリカ、ブラジルおよびインド等の主要尿素輸入国がシェールガスを原料とする尿素工場の建設を推し進めているうえ、中東とアフリカの産油国が廉価の天然ガスと油田ガスを利用する尿素生産能力も急速に拡張している。**2020** 年までに **65** ヶ所以上の新規尿素生産ラインが完成して、世界の尿素生産能力が約 **30%** 増加する。**2015** 年以降、世界が尿素過剰の状況に直面する可能性が非常に高い。

2017 年にアメリカは尿素が自給自足することができ、輸出国に転じることさえあり得る。インドも現在年間 **800** 万トンの尿素輸入量が **2020** 年に半分以下に減らされることができる。将来、中東やアフリカが世界の尿素供給センターになる可能性が高い。

* ウクライナの **OPZ** 社がロシアからの天然ガス不足で、尿素生産ライン **1** 本を停止した。再開時期は未定である。従って、ウクライナの尿素が値上げとなり、**9** 月の輸出 **FOB** 価格を **325** ドル／トンに設定している模様。

* ロシア **Uralkali**、カナダ **Canpotex** およびヨルダン **APC** はマレーシアに輸出した塩化カリは **CFR310** ドル／トンに値上げすることに成功した。また、ベラルーシ **BPC** も追随して **CFR310** ドル／トンに設定した模様。一方、インドネシアも下半期から塩化カリの輸入価格が **CFR310** ドル／トンになる。この両国はパーム栽培が盛んで、多量の塩化カリが必要である。

- * ロシア税関が発表したデータによれば、2014年1~6月の加里肥料輸出量が4760万トンで、昨年同期より52.9%増加した。但し、加里肥料の価格が大きく下落したため、輸出金額が12.4億ドルで、昨年同期より9.5%しか増えなかつた。

大手各社の営業業績

- * カナダ PotashCorp 社は第2四半期の業績を公表した。粗利7.47億ドル、純利益4.72億ドルであった。昨年同期の粗利9.79億ドル、純利益6.43億ドルより大幅減少した。各肥料部門の業績は、加里肥料部門では、販売量250万トン、粗利3.95億ドル、窒素肥料部門では、販売量170万トン、粗利3.04億ドル、りん酸肥料部門では、販売量80万トン、粗利0.48億ドルであった。
- * ロシア PhosAgro 社は今年1~6月の窒素肥料とりん酸系肥料の生産量と販売量が大幅増加したと発表した。昨年同期に比べ、1~6月の窒素肥料生産量は4%増の70.46万トン、そのうち尿素が17%増の51.97万トン。りん酸系肥料生産量は3.2%増の238万トン、そのうちりん安が9%増の116万トン、NPK化成肥料が5%増の89.06万トン。肥料全体の販売量が4%増の308万トンであった。
- * 8月28日、ロシア Uralkali 社が1~6月の業績を公表した。塩化加里の生産量が600万トン、昨年同期より30%増、販売量が42%増の610万トン、そのうち輸出量が510万トンであった。塩化加里の国内平均出荷価格が156ドル/トンで、輸出平均出荷価格が220ドル/トンであった。塩化加里の販売量が大幅に増えたが、出荷価格の下落で、1~6月の純利益が逆に7%減の3.70億ドルしかなかつた。
- * アメリカ Mosaic 社は第2四半期の業績を公表した。売上高が8%減の24億ドル、純利益が73%減の2.48億ドルであった。減収減益の理由は塩化加里の価格下落にあると説明した。
- * カナダ Agrium 社は第2四半期の業績を公表した。売上高が6%増の73億ドルであったが、純利益が逆に15%減の6.25億ドルであった。
- * アメリカ CF Industries 社は第2四半期の業績を公表した。売上高が12%減の15億ドル、純利益が37%減の3.126億ドルであった。減収減益の原因は、今年3月にりん酸肥料販売部門を外部に売却し、窒素系肥料に集中することにある。

- * アメリカ **Intrepid Potash** 社は第2四半期の業績を公表した。ニューメキシコ州とユタ州にあるカリ鉱山と精製工場の生産と販売が順調で、売上高が 15% 増の 9900 万ドルであったが、出荷価格下落の原因で純利益が逆に 50% 減の 560 万ドルしかなかった。
- * アメリカ **Rentech** 社が第2四半期の業績を公表した。売上高が 9% 増の 1.136 億ドル、営業利益が 31% 減の 2320 万ドルであった。
- * ドイツの **K+S** は第2四半期の業績を公表した。売上高が 15.9% 減の 4.611 億ユーロ、営業利益が 12.5% 減の 1.592 億ユーロであった。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 中国からの報道によれば、中国広州東送エネルギーグループがアフリカのウガンダに 6.2 億ドルを投資して、りん酸肥料工場の建設を着工した。当該工場はウガンダ東部の Soroti 県にあり、当地のりん鉱石埋蔵量が 2.3 億トンに達し、そのりん鉱石を原料として年間 30 万トンりん酸肥料と 20 万トン硫酸を製造する計画である。
- * 日本三菱商事とトルコのゼネコン **GAP Unsaat Yatirim ve Dis Ticaret** 社は共同で中央アジアのトルクメニスタンの **Garabogaz** 市に尿素工場を建設する。8月 18 日に起工式を行った。当該工場の設計生産能力がアンモニア 2000 トン／日、尿素 3500 トン／日、2018 年完成する予定、製品はすべて輸出に供する。投資金額 13 億ドル、その 85% が日本国際協力銀行の貸出、残りはトルクメニスタン政府が調達する。
トルクメニスタンは豊富な天然ガス埋蔵量を有し、その埋蔵量が世界第 4 位である。天然ガスを原料で尿素の生産コストが 65～110 ドル／トンに抑えることができるといわれる。最寄りの黒海またはイランの港までの距離が 1000km 以上の距離があるが、80 ドル／トン以上の輸送費用を入れても国際競争力がある。主な輸出先は欧州や東北アジアと想定している。

その他

- * 世界最大の尿素とりん安輸入国インドは、尿素供給先の安定化を図るため、海外で化学肥料工場の建設と運営を強力に進めている。
インド政府の肥料省 (Department of Fertilizers) が刊行した「インド肥料年鑑 2013～2014」にはインドが海外にすでに計 6 ヶ所の肥料工場を建設と運営していると書いている。そのうちの 5 ヶ所が DAP 工場で（セネガルに 1 ヶ所 55 万トン／年、ヨルダンに 2 ヶ所 22.4 万トン／年と 48 万トン／年、モロッコに 1 ヶ所 42.5 万トン／年、チュニジアに 1 ヶ所 36 万トン／年）、1 ヶ所が尿素工場（オマーンに尿素 165.2 万トン／年

とアンモニア 24.8 万トン／年) である。また、イランとの間に尿素 130 万トン／年の工場建設について商談している。

イランは核開発疑惑で、欧米から経済制裁を受けていた。しかし、インドは国連の制裁措置を無視してイランから大量の尿素を輸入している。その輸入量が 2010 年 57.8 万トン、2011 年 153.8 万トン、2012 年 153.3 万トン、2013 年 200.3 万トンであった。目下、インドとイランとの間にイラン南西部の Chabahar 港で尿素生産能力 130 万トン／年の合弁工場を建設することについて商談を進んでいる。イラン側は尿素原料の天然ガスを 0.1 ドル／m³ の格安価格で供給することを約束した。当該工場の投資額は 11.6 億ドルと計画されている。

* ベトナム新聞報道によれば、国内肥料生産能力の急速発展で、肥料在庫量が大幅に増えた。2014 年 4 月末現在、化学肥料の在庫量が 68.5 万トンで、その内訳が尿素 13.8 万トン、化成肥料 27.9 万トンであった。

国内の化学肥料工業業界を保護するため、ベトナム Vinachem グループは、尿素の輸入関税を 0% から 3%、化成肥料の輸入関税を 0～6% から 8%、DAP の輸入関税を 0～4.5% から 8% に引き上げるよう政府に要請した。ベトナム政府財務省は、できるだけ早く関係部署と協会の意見を聴取して、化学肥料の輸入関税改正の必要性を研究すると発表した。

* インド政府化学肥料省大臣 Ananth Kumar 氏は、石油省大臣 Dharmendra Pradhan 氏と会談して、天然ガスパイプの建設と尿素生産に必要な天然ガス供給、閉鎖した尿素工場の再開について意見を交換した。

会談後、Ananth Kumar 氏はウッタル・プラデーシュ州の Kanpur 地区と西ベンガル州の Haldia 港との間に天然ガスパイプを建設して、現在閉鎖した Sindri、Baroni、Haldia、Gorakhpur と Durgapur の 5 つの尿素工場に原料を提供し、生産再開することについて前向きに検討したと述べた。

インドの化学肥料産業は国内最大の天然ガス需要家で、毎日約 3150 万 m³ 天然ガスを必要とする。天然ガス供給不足で、現在いくつかの尿素工場が閉鎖した。インドは 2000 年から尿素生産能力がずっと 2200 万トン／年に留まり、毎年 800 万トン以上を輸入している。天然ガスの供給を安定して、尿素生産量を増やし、輸入量を減らすことが政府の目標である。

* イギリス Financial Times 紙の報道によれば、ロシア Uralkali 社の最大株主 Anatoly Skurov 氏と Filaret Galchev 氏が所有している 12% の株式を中国ファンド中旅金融 HC に売却することに合意した。売却額は 15 億ドル前後とみられる。

昨年 7 月、Uralkali 社が BPC から離脱して、塩化加里の価格下落を導いた。その後、ベラルーシ政府が Uralkali 社の CEO を逮捕したり、離脱の主導と見られる個人株主の株式売却を迫ったりして、ベラルーシとロシア両国の政治問題に発展した。その関係もあり、中国ファンド CIC が 2013 年 9 月 24 日に Uralkali 社の 12.5% 株式を買収し、取締役を派遣した。今回の買収に合わせて、中国資本が Uralkali 社の 24.5% 株式を所有することになる。